

Photographic Society of

Zone System

ゾーン・システム研究会会報

発行日：98' 12/20

発行者：中島 秀雄

編集部：

編集レイアウト：篠原 康之

内田順

vol.12

CONTENTS

- ・ 写真展を終えて
- ・ テクニカルアドバイス
- ・ Information
- ・ PHOTO GALLERY 別紙



写真展を終えて

毎年どんな写真が集まり、どんな展覧会になるのか楽しみでもあり気にもなる。今年はおおいに気になった、参加者が少ないし作品の集まりもよくない。8月に集まった作品の内容も去年を上回るものは少なかった。これでは展覧会にならないし、平木さんに見せることも出来ないとその時は思っていた。参加者が増え、作品の内容が高まってきたのは10月に入ってからだ。

今年は去年と少し違った展覧会にしたいと思っていた。そして、そのようになったと思う。理由はいろいろあるが、創作的な作品が多少出てきたこと、個人の写真制作の中から多くの写真が集まったこと、これらが展覧会を厚みのあるものにした。身の周りにあるものをじっくり眺め、作品に組み上げていく、これは我々のテーマでもある。日常の中で見慣れたものを眺めることは実に退屈な行為かもしれない、それだけに創造力がためられることにもなる。また、撮影に積極的に出かけ、ひとりひとりじっ

くり納得できるまで被写体と対峙してみる、このことがオリジナルをつくることになり、事や物の本質が見えてくる。

今回、こうした個人の自由な撮影活動の中から写真が集まり展覧会を変化あるものにした。

プリントサイズを変えたことも、見せ方として効果があった。半切までのプリントであれば、そのことで失うものより得るものが大きいこともわかった。小さなサイズもそれなりに効果的で、緻密な作品に仕上がった。アメリカには35mmサイズベタ焼きをファインプ

プリントする人もいるくらいでその気持ちはよくわかる。しかし、これ以上のサイズになると、暗室ワークに



オープニングパーティーで挨拶する平木先生

無理が生じ、ファインプリントに責任がもてなくなる。処理中の印画紙のストレスやその後のプリントの保管、大伸ばしのための苦心や苦労を考えるとこのサイズまでが限度だろう。

今回の作品に、去年と似たイメージがあったにもかかわらず同じように見えなかったのは、確実にプリントのクオリティーが上がっているからで、このことは多くの人に評価されたことのひとつです。作品鑑賞や暗室ワークなど会の活動の成果もあるが、一人一人の努力が大きい。

アンケートとフロアーレクチャーを試みたことは前回にはなかった。アンケートは集計によって、いずれその結果が公表されると思う。レクチャーに関しては全体の話私を担当し、作者が自分の作品についてコメントするという試みで、自分の作品の内側の意味をある程度言葉化していくことも必要なこ

とでいい試みだった。ただ参加者をもっと多く集めるとなると、事前に何人かは確実に集めておくとか、準備が必要だろう。

テーマを一つに絞ってはどうか、人物が欲しい、顔のクローズアップもいい、これらは直接知人友人からの意見だった。見る方は自由に見ている、だからもしテーマを一つにするともっとバラバラがいいと言い出すかもしれない、相対的なものもある。今後さらに続けていくとなると、研究会として内容やテーマに議論を深めていく必要もあるだろう。

今年は残念ながら参加者が少し減ってしまった。多くの会員の参加が研究会の目標でもあるが、様々な理由からそれはなかなか難しい。ただ研究会との関わりは様々なものがあっていいと思っている、つまり多様性ということも考えなくてはいけないと感じた。



東京写真文化館 篠原氏



森山大道先生



会期中のひとこま



最終日 記念写真

しかし、今回出展できなかった会員には積極的に作品を見ていただきたかった。また作品を作っていくという現場に立ち会うことも経験であり、今後ぜひ試みていただきたい。

今回の展覧会で新たな会員も生まれてきている、現在進行中の写真講座からもぜひ参加したいという人もいたり、少しずつではあっても増えていくものと思う。従来の会員はぜひ今後も頑張っていたきたい。

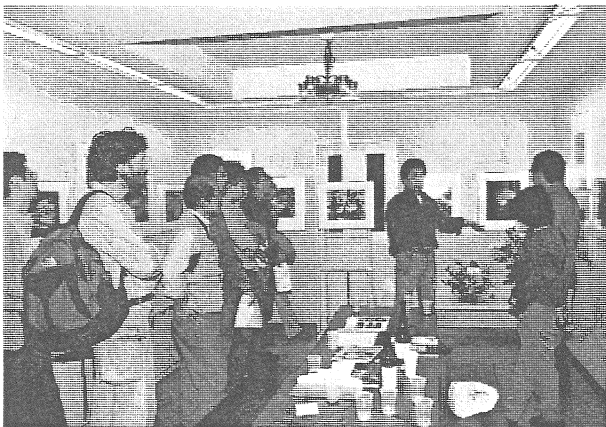
今がもっとも難しい時期なのか、それともこれからがより難しい時代になっていくのか、下がるときもあれば上がるときもあり、歴史はこれをくり返してきた。山根一真の“メタルカラーの時代”によると、新たなテクノロジーは確実に蓄積されてきている、だからやがて上向きになることは確実だろうと感じた。少なくとも個人のレベルではいつも上向き

〈フロアレクチャー〉

で進んで行きたい。

我々のやっていることは動かしがたい一つの在り方であり、アメリカでは一つのジャンルとして、多くの人々に浸透している。我々には、誰れもが一度はやってみたいと思っていることを少し先にやっているということが、今いえることです。

中島秀雄



ゾーンシステム・テクニカルアドバイス

中島秀雄

—ファインプリントのための水洗—

写真は科学と化学によって成立すると言われるように、プリントは様々な薬品を通過して仕上げられる。現像処理工程はもちろんのこと、最終工程のチオ硫酸ナトリウムをはじめ、定着作用で出てくる定着生成物(チオ硫酸銀塩)など、プリントから完全に除去する必要がある。これが水洗の目的である。もし、不完全な水洗であれば、後日、変色の原因となり、今までの努力が無駄になってしまう。

特に、バライタ紙は写真原紙に吸着したチオ硫酸塩や定着生成物の除去が大変難しい。また、水道水に含まれる殺菌剤も変色の原因になり、水道水に長く浸けておくことはできるだけ避けなければならない。そこで短時間に効率よく水洗するための方法を考えなければいけない。

—水洗促進剤による水洗—

亜硫酸ナトリウム2%溶液の弱アルカリ性によって、チオ硫酸塩の流出を促進する。フジフィルムのQW、コダックのハイポ・クリヤリングエーゼントがこれにあたる。またヘイコのパーマ・ウォッシュも奨められる。これらの使用により水洗時間を著しく減少させ、促進剤を使わないときの1/10程度の水洗時間になる。定着済みのプリントを予備水洗したのち、水洗促進液で処理し、最終水洗を行う。

注：亜硫酸ナトリウムは銀を溶かす作用があり、水洗促進液に長くつけておくことは避けなければならない。

—水洗促進液とセレン調色液の組合せ—

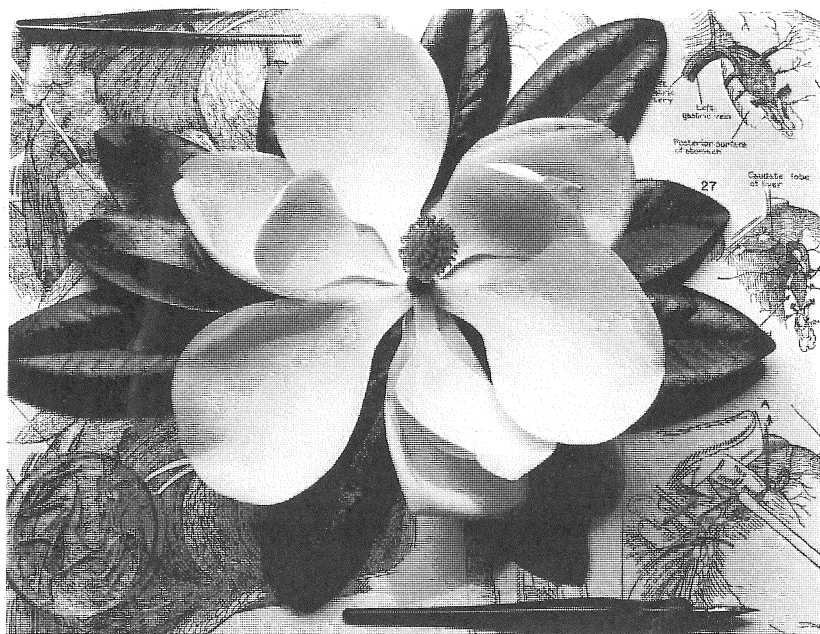
画像保護のためのセレン調色液と水洗促進液を混ぜ、一度に処理することができる。セレン調色液はプリントの画像にやや冷たい色調を与え、最大濃度を高め画面を引き締める効果もある。また銀画像が大気中の有害ガスに冒されるのを防ぎ、アーカイバルな永続性を高めることになる。

コダック・ハイポクリヤリング・エーゼント	(KHCA) 3.8L
コダック・ラピッドセレンウム・トナー	200ml
コダック・バランスド・アルカリ	75g
処理量：11×14	25枚
8×10	50枚
温度：23度	3～5分

クリーンな二つのトレイを用意し一方に混合液を満たし、一方は流水を入れる。予備水洗の終わったプリントを混合液に一枚ずつ入れ攪拌する。印画紙の種類にもよるが2分程で色調がかわってくる。時間がきたら混合液をよく切って流水の中に入れ、プリントの表面をスポンジで軽く洗い流す。

KHCAの指定時間が3分なので3分より短縮できない。そして、最終水洗に入る。完全なアーカイバルを求めるなら、第二水洗の前にコダックHE-1溶液で処理をするとよい。これは1インチ四方0.001mgまでハイポを除去することが出来るとされている。

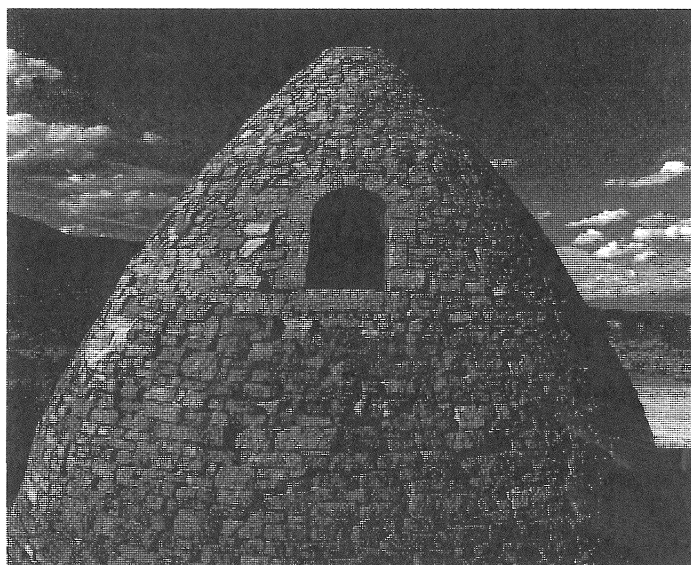
PHOTO GALLERY



Botanica
中島秀雄



Corn&Nectarines
菅野 慶考



charcoal oven
齊藤 隆義



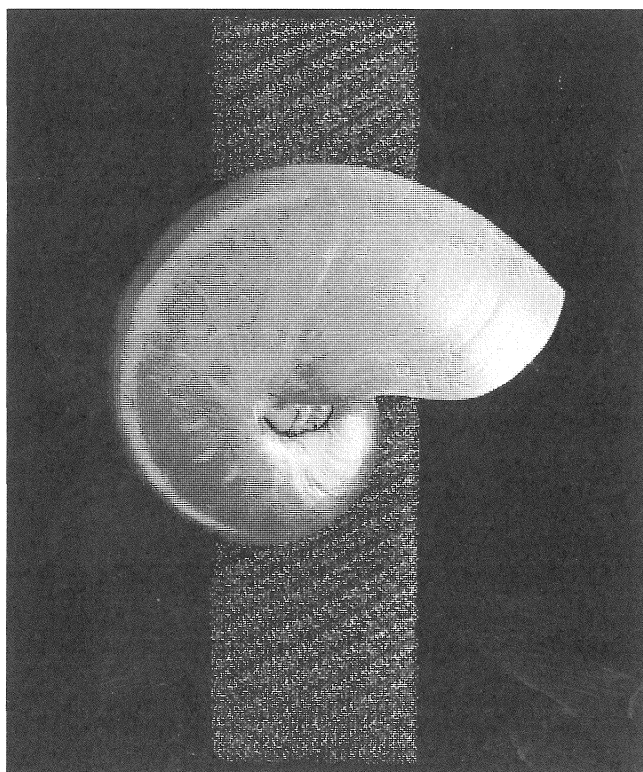
Thistle
山本 昭二



Cabbage
木下 威



Forest
内田 順



shell
諸見里 朝和

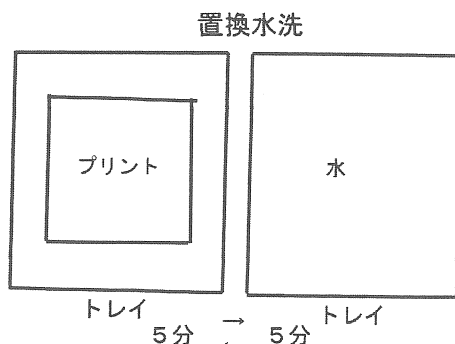
—第二水洗—

水洗促進液によって、ハイポは印画紙からほとんど流れ出てしまい、ほんのわずかなハイポが印画紙の表面や繊維の中に残っている。これを第二水洗で取り除くのである。水をたっぷり含んで傷付きやすいプリントを慎重に水洗いするのは結構大変な作業で、これはもう市販の水洗器を利用するのが一番いい。

—置換水洗—

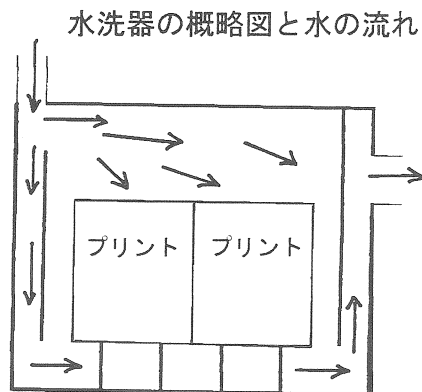
水洗器が無い場合は、置換水洗がよい。水の入った二つのトレイを用意し、一方のトレイにプリントを沈め、5分間絶えず攪拌する。つぎに新鮮な水のトレイに移し、また5分間連続授拌する。そして最初のトレイの水を入れ替えておき、プリントを新鮮な水の入った最初のトレイに入れ攪拌する。

これを12回行くと約1時間になる。簡単で効果的な方法ではあるが、11X14のプリントでは一度に5枚が限度だろう。途中プリントの折れ曲がりに注意が必要だ。



—水洗器の利用—

透明の亚克力板で仕切られ、プリントが分離でき、十分な水が流れるようになっている。米国製がほとんどで、器用な人なら亚克力の板を買って自分でも作れる。8X10で30枚、11X14なら15枚一度に水洗が可能で、全紙までできるものもある。私は11X14, 16X20の2台を利用している。手で水洗するときの折れ曲がりを防ぐことができるし、40分から60分の水洗中ほかの仕事ができる。重要でしかも長く単調な作業、これはもう水洗器に任せてしまうのがよい。ただしプリントの表面に多数の気泡が付着するので、時々その気泡を取る必要がある。暗室にブザー付きのタイマーがあり、水洗が終わるとブザーが鳴るようにしてある。



水洗器解説

水は上から入り、下へ流れ込む。ハイポは水より重いので下に沈んでいく、そして、水といっしょに下から上に向かって押し上げられ、外に排出される。下に沈んだハイポは再びプリントに触れることはない。

強制的に泡でハイポを押し上げて排出するタイプの水洗器もあるが、水より重いハイポが上手く排出されるのかよくわからない。泡の出る小さな穴が目ざまりしてしまった水洗器をみたことがある。

アクリル板は水を吸い込む性質があり、使わないときでも変形をさけるために水は入れておく。しばらく使わないと水垢や濁りが出てくるので、すべての水を入れ替えるか、時々水を流すとよい。

次回は自然乾燥

－水洗効率因子－

水量 水洗器によって水量が決められている。

私の水洗器は1分間に4リットルの水を要求し、見ているとチョロチョロした水の流れのようだが、多くても少なくても効率は良くない。

水温 米国の資料によると、23～26℃が最も効率がよいといっている。

攪拌 プリントに新鮮で十分な水が流れることが重要だ。私は、プリントに付着した気泡を取るために水洗器からプリントを持ち上げて、気泡を取ってまた沈める。これが攪拌にもなっている。

水洗の温度コントロール

真冬の水道は5℃以下に下がってしまう、この温度はプリントの水洗には適さない。置換水洗のときは大きなやかんにお湯を沸かし、水と混ぜながら使用する。私は深夜電力利用の電気温水器と、暗室にウォーター・温度チャーター・コントロール・システム(WTCS)をセットして、水温コントロールしている。WTCSは、プロラボ用としてキットが市販されていて、コントロールバルブ、水量バルブ、水量計、温度計、フィルターがパネルにセットされている(19万円位)。

パーツを買い集め、自分で組み立てることも出来ないことではない(10万円以内)。米国製のもので\$500～800前後。

ZoneVI Archival Print Washers

Size	Capacity	Price
8x10	8x10 10枚	\$400.00
11x14	8X10 30枚, 11X14 15枚	\$500.00
16x20	11x14 30枚、16x20 15枚	\$600.00

Photographic Society of Zone System